

# ワンフレーの5領域の取り組み

①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動
○健康状態の維持・改善 ○生活のリズムや生活習慣の形成 ○基本的生活スキルの獲得	○姿勢と運動・動作の向上 ○姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ○保有する感覚の総合的な活用	○認知の発達と行動の習得 ○空間・時間、数等の概念形成の習慣 ○対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習慣

④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性
○言語の形成と活用 ○言語の受容及び表出 ○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○コミュニケーション手段の選択と活用	○他者との関わりの（人間関係）の形成 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加

## ①，健康・生活

ねらい・・・**健康状態の維持・改善**（意思表示が困難であるこどもの障碍の特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。）

ねらい・・・**生活のリズムや生活習慣の形成**（睡眠・食事・排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるように支援する。）

ねらい・・・**基本生活スキルの獲得**（身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。）

## ②，運動・感覚

ねらい・・・**姿勢と運動・動作の向上**（日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。）

ねらい・・・**保有する感覚の統合的な活用**（保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。）

## ③，認知・行動

ねらい・・・**認知の発達と行動の習得**（視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。また、環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。）

ねらい・・・**対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得**（認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。）

## ④，言語・コミュニケーション

ねらい・・・**言語の形成と活用**（具体的な物事の体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言葉の習得、自発的な発声を促す支援を行う。）

ねらい・・・**コミュニケーションの基礎的能力の向上**（個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。）

## ⑤，人間関係・社会性

ねらい・・・**他者との関わり（人間関係）の形成**（人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。また、遊びを通じて人の動きを模倣する事により、社会性や対人関係の芽生えを支援する。）

ねらい・・・**仲間づくりと集団への参加**（感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。また、周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。）

事業所名

ワンフラワー宝塚

## 支援プログラム (参考様式)

作成日

2024 年

12 月

13 日

法人（事業所）理念		社会での個人の立場を明確に記せるように、他者との関わりを大事に考えている。特に場面での切り替えを、沢山経験させる事を重視している。				
支援方針		利用者さんと、職員とのコミュニケーションをしっかりと取り、児に対して他者との関わり大切さを、経験を通じて記憶させる事で児の理解を高める。また、小集団での関わりを進るため、療育中チームを組み、勝ち負けでは無いサーキットでの楽しさを、経験を通じて児に正しい記憶をさせる。				
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	(健康状態の維持・改善) 意思表示が困難である子どもの障碍の特性に配慮し、小さなサインを見逃さず、支援する。また(生活のリズムや生活習慣の形成) 睡眠・食事・排泄等の基本的な事を、習得するよう職員が本人に寄り添い正しい経験増やしていく。				
	運動・感覚	基本的な感覚を身につける。五感(視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚)の他に(平衡感覚・運動感覚・内臓感覚)この3つの感覚を加え、体内で起きた刺激を感覚として脳で整理しまとめる動きをする感覚統合を取り入れた運動療育。サーキット形式で粗大運動や触覚刺激・微細運動を取り入れ、運動を通じてバランス良く処理し正しい経験を脳に記憶し児の行動を正しく導く。				
	認知・行動	(認知の発達と行動の習得)視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を支援する。また言葉だけでなく実物や写真・見本をみせながら活動の面白さや興味の拡充に向けて文字・数字・遊びやルールを導入する。				
	言語 コミュニケーション	(言語の形成と活用) 具体的な物事の体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声をするように、遊びを通して児の潜在的な能力を、引き出すように児に寄り添い・視覚・聴覚・触覚を通じて言語の根っ子に繋がるように、他者との関わりに繋げる。また言葉になりきらない思いを受け止め言語化し、自分の感情と言葉が一致していくように促す。お友だちと一緒に協力したり、チームになって考えるなかでコミュニケーションをとる楽しさを知っていく。				
	人間関係 社会性	(人間関係の形成) 人との関係を意識し、周囲の人と安定した関係を形成し社会性や対人関係を良好にするための支援を行う。ありのままの姿を認め人と関わる心地よさの獲得。また相手の気持ちに気づき始めたときには相手が喜ぶ行動や言葉がけと一緒に考えられる機会を作りルールのある遊びをしたりお友だちと協力するおもしろさの体験と獲得。				
家族支援		家庭での関わり方や誘導・声掛けの仕方・タイミングなど分からない事や兄弟ケンカなどの困り事がある時はその都度、電話や連絡帳などで連絡を取り話し合いながら解決策と一緒に考えていく。	移行支援		幼稚園(保育園)や小学校生活に順応できるように戸惑い無く集団活動に参加できるように環境を整え必要な動作を習得していく。またイベントや体験など同年代との仲間作りの場を案内していく。	
地域支援・地域連携		児一人に対して、支援センターとの意見交換を心掛けている。		職員の質の向上		1年に1回以上、職員のスキルアップの為、研修に参加している。
主な行事等		特別なイベントや行事は行っていないが、サーキットや活動の課題の中にその時々イベント(季節の)やNHKなどでみんながよく歌っている歌に合わせた課題を設定しいつもとは違う雰囲気や内容にし、楽しめるように工夫をしている。				